

第 4 回生物多様性国家戦略小委員会における 委員意見とその対応

○次期生物多様性国家戦略素案に関するご意見

	委員からの意見	対応方針
全般	●目標素案の表について、次期生物多様性国家戦略（次期国家戦略）の目標素案ごとにポスト 2020 生物多様性枠組の目標案との対応が整理されているが逆の整理もしてほしい。	○今後の次期国家戦略の目標及び指標の検討において整理いたします。
	●マンガ、絵本、動画など様々な媒体を活用した普及啓発を検討すべき。	○次期国家戦略の普及啓発の方法については、引き続き検討いたします。
	●この戦略が誰を対象にしているのかわからない。誰に読んでほしいのか、文章全体でわかるようにしてほしい。	○第 4 章において各主体に期待される役割について記載する中で、それぞれの読み手を意識した内容を整理しました。
	●背景から現状までが長い。戦略の具象的な内容になかなかとどり着かない。生物多様性・生態系サービスの現状などの詳しい説明は巻末資料とすることも考えられる。	○生物多様性・生態系サービスの現状などは引き続きできる限り要点を絞って記載していきます。さらに詳細な説明は第 3 部の付属書に掲載することを検討しています。
背景	●国際動向、環境分野の政策動向、社会全体の変化について多くの要素が記載されているが、これらの関係性を図で示すなどして明確にする必要がある。	○今後、付属書や普及啓発用の資料等における対応を検討いたします。
	●地球の持続可能性の確保について「世界的な最優先の課題」とされている記載を「人類の生存にとって最優先の課題」と修正した方が後ろの「人類が豊かに生き続けるための基盤」と整合が付き、インパクトもあるのではないか。	○ご指摘のとおり修正しました。

	<p>●「人間の安全保障」の入り方が弱い。素案の中に食料安全保障に関する記載はあるが、資源、エネルギーの安全保障も重要で、人権とも絡む問題。海外の資源をこれまでどおり使って良いのか、そのときのデューデリジェンスがしっかりとしているのかという視点を、一言で片付けるのではなくもう少し入れた方が良い。国内資源の活用も、気候変動や人権とも絡めて書くべき。</p>	<p>○ご指摘の観点を踏まえ修正しました。</p>
	<p>●我が国の置かれた状況について全体を通してネガティブなことが多く書かれているが、ポジティブなことがほとんど書いていない。この戦略に基づいて企業や個人がアクションを取りたいと思えるポジティブな未来があるトーンにしてほしい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、ポジティブな社会像について記載しました。</p>
	<p>●前回の戦略は東日本大震災直後に策定されたので、震災を踏まえた記載もあり、自立分散、レジリエンス、持続可能性についても書いてあった。これらの要素を消さずに、自然の問題、地域循環共生圏の問題など、ポジティブな社会としてどう考えるか書いてほしい。</p>	<p>○ご指摘の観点を踏まえ修正しました。</p>
	<p>●「新たな資本主義」について「新しい資本主義」に統一した方が良い。</p>	<p>○ご指摘のとおり修正しました。</p>
	<p>●「再生可能エネルギーによる不必要な自然破壊」の記載については表現の工夫が必要。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、表現を修正しました。</p>
第1部 第1章	<p>●第1節のロジックは生物多様性的には教科書的で当たり前だが、一般の人には理解しづらい。そこが主流化しない要因。なぜ種の絶滅が問題なのかというところの表現を考えるべき。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、冒頭に生物多様性・生態系と人間の福利との関係等について記載しました。</p>
	<p>●第1節の2の(1)の気候変動のところでは、ジオエンジニアリングのリスクと警鐘を入れた方が良い。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、ジオエンジニアリングについて記載しました。</p>

<p>●生物多様性の損失と気候危機の2つの危機の要因と新興感染症の発生要因は共通点を有するとあるが、このような表現にすると2つの危機と感染症の問題が独立した別の事象のような扱いになってしまう。感染症の問題は2つの危機と密接に関連しており、2つの危機の副産物である、というコンテキストにする必要がある。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ表現を修正しました。</p>
<p>●第1節の2の(1)の新興感染症・ワンヘルスのところではアニマルウェルフェア、動物福祉も記載してはどうか。人間中心主義に留まらない方向、倫理的消費にも通じる。</p>	<p>○ご指摘の観点を踏まえ修正しました。</p>
<p>●第1節の2の(1)に出てくるOECMについては一般の人にはなじみがない概念。後のパートでもいいが、里山、社叢林等、具体的例示があっても良い。</p>	<p>○自然共生サイト(仮称)の説明を加え、例示を追記しました。</p>
<p>●NbSはマルチベネフィットが大事と説明にあったが第1節2(1)の文中には記載されていない。これまでの計画はマルチベネフィットを組み込めなかったことが課題。この観点を書けないか。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、マルチベネフィットの観点を追記しました。</p>
<p>●第1節の2の(3)②では生物多様性の危機ではなく「脅威」が使われている。言葉がわかりにくい。</p>	<p>○ポスト2020生物多様性枠組の説明においては、「脅威」という表現を用いています。</p>
<p>●第2節1の(2)②「生態系サービス」のところ、植林した樹木の成長によりサービスが向上しつつあると記載されているが、管理放棄されて生態系サービスが劣化している人工林もある。このことについても書くべきではないか。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、手入れ不足の森林における状況について追記しました。</p>
<p>●第2の危機について農地のことは書かれているが森林のことが書かれていない。森林の管理、特に人工林管理の問題についても第2の危機で書くべき。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、森林の管理の問題について追記しました。</p>
<p>●第2の危機で「メダカ」とあるが「メダカ類」が最新の分類を踏まえると正確な表記。</p>	<p>○ご指摘のとおり修正しました。</p>

●第3の危機で「外来種」とあるが「外来種・外国産在来生物」としてはどうか。道路法面などにおいて、在来種と同種であっても国外から国内に導入された緑化植物により、遺伝的多様性の攪乱が起きるといふ事例がある。	○ご指摘の観点を踏まえ、文章中に緑化植物に関連した遺伝的攪乱の懸念について追記しました。
●第3の危機で「ヒアリ」とあるが「ヒアリ類」が最新の分類を踏まえると正確な表記。	○環境白書等との整合を図り、「ヒアリ」としました。
●高度経済成長期に公害による汚染があり、その経験を経て汚染の制御の取組が進んだ。こうした経緯が書かれていないのでは。	○ご指摘を踏まえ、公害を踏まえて取組が進んだ経緯について追記しました。
●第3の危機で、化学物質の表現が曖昧である。化学物質には有機も無機もあり、生態系に悪影響を及ぼし得るといふ部分に関して、何が問題かといふ具体性を持たせる必要がある。人間にとって無くてはならない化合物もあるといふことも書く必要がある。	○ご指摘を踏まえ、化学物質に関する記載を追加しました。
●第3の危機について、現行戦略では丁寧に書いてあり化学物質がどこにあるかわかったが、今回は化学物質が最後の一文にある程度でよくわからない。	○ご指摘を踏まえ、化学物質に関する記載を追加しました。
●プラネタリーバウンダリーの中の特に大きな問題の一つが窒素・リンの問題。JB03では富栄養化を第3の危機に位置づけたことにならない、次期国家戦略においても同様に記載すべき。	○ご指摘を踏まえ、富栄養化について追記しました。
●海洋プラスチックも第3の危機に含まれるのではないか。	○ご指摘を踏まえ、海洋プラスチックについて追記しました。
●経済・社会のグローバル化の項目では、外来種の問題が記載されているが、それだけではなく、新興感染症の問題にフォーカスすべき。	○ご指摘を踏まえ、感染症の観点を追記しました。
●経済・社会のグローバル化について、日本が世界に与える影響に関する記載が抜けている。	○ご指摘を踏まえ、他国における生物多様性の損失への影響について追記しました。

<p>●「社会経済に内在する生物多様性の危機」とあるが、4つの危機があり、その背景にさらに危機があるというのでは分かりにくい。直接要因、間接要因の関係性があるので、それに基づき整理するとよいのでは。「危機」という表現を直接要因・間接要因に直せないとしても、用語集等できちんと対応を整理しておくことが必要。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、「社会経済に内在する生物多様性損失要因」に修正しました。危機と直接要因・間接要因の関係は付属書等で整理します。</p>
<p>●5つめの危機を足そうとしたことでわかりづらい整理になってしまっている。直接要因・間接要因に整理すればわかりやすいロジックになるが、危機が入れ子状態でわかりづらい状況では、進捗の点検、見直しにも影響しうる。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、「社会経済に内在する生物多様性損失要因」に修正しました。危機と直接要因・間接要因の関係は付属書等で整理します。</p>
<p>●「社会経済に内在する危機」は、見出しを読んでも何を意味しているかわからない。見出しを見てイメージがつくよう、工夫してもらいたい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、見出しを修正しました。</p>
<p>●「社会の価値観と行動」は何を意味しているのか。企業、団体や国民のことだと思うが、主語がわかりにくい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ修正しました。</p>
<p>●「社会経済に内在する危機」は、社会経済の構造転換がなければ解消しない。資源に対する消費が社会経済構造に組み込まれていない問題などに触れておくとも後ろにも繋がる。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、社会経済の構造について追記しました。</p>
<p>●国内での課題で、世界の現状と動向にある、自然を活用した解決策（NbS）や自然資本などの観点が書き切れていないのでは。これらを記載して基本戦略との繋がりをわかりやすくしてほしい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、NbS や自然資本の観点を追記しました。</p>
<p>●第3節の（2）の具体的課題がそのまま3章の基本戦略になっているが、課題が課題の書き方になっていない。課題と戦略は1対1対応が良いのかも要検討。一つの課題に対し複数の戦略が効くということもある。</p>	<p>○全般的課題を「取り組むべき課題の観点」として整理しつつ、具体的課題は、各基本戦略と対応するよう記載する形としています。課題の書き方については一部修正しました。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●ネイチャーポジティブ経済とはなにか。ネイチャーポジティブは回復基調に乗せることだが、回復基調に乗せる経済とはなにか。どこかで定義を記載すべき。 	○ネイチャーポジティブ経済等の定義については引き続き検討し、第3章において解説を記載する予定です。
	<ul style="list-style-type: none"> ●第3節の(3)課題への対処において重要な考え方では、ESGとの関連性についても入れた方が良い。 	○ご指摘を踏まえ、今後記載します。
第1部 第2章	<ul style="list-style-type: none"> ●第2節の目指すべき社会像に、生態系だけではなく生物多様性についても記載すべき。また、「暮らし」の視点を入れた方が良い。 	○ご指摘を踏まえ修正しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●第2節の目指すべき自然共生社会像で他国への影響も触れた方が良い。自然資本が人間の安全保障上重要であるならば、日本の社会経済活動によって他国に影響を及ぼさないことも重要。 	○他国への影響の観点は、「②自然を基盤としてその恵みを持続可能に利用する社会」において、テレカップリングの観点を記載しています。
第1部 第3章	<ul style="list-style-type: none"> ●第1節ネイチャーポジティブだけではわかりづらいが、良い言葉は浮かばない。サブタイトルで(生物多様性を回復させる)と付けてみては。 	○ネイチャーポジティブを的確に表す表現については、引き続き検討してまいります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●ネイチャーポジティブの日本語での言い換えについては公募をかけてみてはどうか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●ネイチャーポジティブの日本語での言い換えについては詩人の協力を仰いで 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●ネイチャーポジティブについては普段議論に疎遠な人にどう説明するか、話をしながら意見を聞いて通じやすい説明を模索していくことが戦略策定の過程で大事。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略1のタイトルが「生態系」で、「生物多様性」が入っていないことに違和感がある。「生態系の健全性と生物多様性の保全再生」としてはどうか。 	
		○「生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること」を全体をカバーするミッションとして位置づけており、基本戦略1も生物多様性の保全再生に紐付く形にしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略3のタイトルに記載されている「統合」、基本戦略4に記載されている「再統合」については、内部化がわかりづらいとの指摘への対応だと思うがわかりにくい。 	○ご指摘を踏まえ、タイトルを修正しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネイチャーポジティブ経済」「ネイチャーポジティブ経営」など、新しい言葉が作られているが、ネイチャーポジティブは状態であると理解しており、そこに向けて何をするかがわかりづらい。新たな言葉を作るのではなく、「ネイチャーポジティブに向けた経営」などとしてもよい。 	○第3章における用語の解説を含め、今後、表記や説明方法を検討してまいります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「2030年ネイチャーポジティブ」の図が難しい。中学生にもわかるくらいの図にしていくことも大事。また、回復させるということが科学的にどう説明できるか知見の積み重ねをすることも必要。 	○引き続き分かりやすい図としていくことを検討してまいります。
(基本戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略1の1-2の②農地の項目で、草地については記載されているが、田畑の耕作放棄についても機作言うべき。 	○ご指摘を踏まえ、荒廃農地に関する記載を追加しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●関係省庁の連携は基本戦略1だけではなく、他の基本戦略にも関わるものだが、基本戦略1においての連携はどのようなものか、見出しで分かるようにするべき。 	○ご指摘を踏まえ、見出しを修正しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略の中で状態目標・行動目標の位置づけや解説を記載するべき。 	○ご指摘を踏まえ、各基本戦略における状態目標・行動目標の設定に係る説明を追記しました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略1の行動目標③に記載されている「劣化した生態系」の定義について、オーバーユース、気候変動に加え、耕作放棄、森林の管理不足を入れてはどうか。 	○今後、目標・指標の検討において「劣化した生態系」の定義を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> ●基本戦略1の行動目標③に記載されている「劣化した生態系」についてポスト2020生物多様性枠組のドラフトで掲げられている20%の再生は可能なのか。これに対応した具体的目標を設定できるのか危惧している。 	○今後、目標・指標の検討において、数値目標設定の実現可能性や妥当性を検討します。

	<p>●基本戦略1の行動目標⑤に関連して、日本緑化工学会から意見書が提出された。外国産の緑化植物の使用禁止と、地域性系統の植物の使用促進について記載されているので是非参照されたい。</p>	<p>○意見書を踏まえ、第1章において、外国産の緑化植物等について記載するとともに、第2部に関連する施策を位置づけました。</p>
(基本戦略2)	<p>●基本戦略2の1「自然を活用した地域づくり」で国立公園について記載されているが、満喫プロジェクトやアドベンチャーツーリズムが地域づくりや地域における社会課題の解決にどう役に立つのかわかりにくい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、地域経済の活性化に関する記載を追加しました。</p>
	<p>●自然生態系の管理による吸収源対策の記載がわかりにくい。自然生態系を管理して健全な状態にするとされているが、どのような管理を考えているのかわからない。吸収源対策のために自然生態系に負の影響を与える可能性もあり、誤解を生む可能性がある。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、記載を修正しました。</p>
	<p>●大規模な再生可能エネルギーについて、生物多様性と折り合わないケースがある。例えば、環境アセスメントの制度に地域住民の声を取り込むとともに、科学的な知見をしっかりと備えた事業になるよう、改善していくことも位置づけて欲しい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、環境アセスメント制度等に関する記載を追加しました。</p>
	<p>●2-2では気候変動対策のシナジー・トレードオフそれぞれにおいて、緩和と適応の両方の観点を書いた方が良い。 ①は前半が緩和で後半は適応になっているが、「緩和策」という言葉を入れてほしい。また、②では他分野の適応策をとった際のトレードオフについても書くべき。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、緩和及び適応の観点を追記・明示しました。</p>
	<p>●ワンヘルスについて第1章でクローズアップされている一方、後半には出てこないで記載してほしい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、ワンヘルスの考え方も踏まえた取組について追記しました。</p>

(基本戦略3)	●基本戦略3の中で ESG についての言葉が少ない。社会的要請が強く、企業等が注目している。関係性を強く述べたほうがよい。	○ご指摘を踏まえ、ESG 金融に係る記載を追加しました。
	●ESG については投融資で配慮する動きが活発化しているので、注目しているということは基本戦略3に入れてほしい。	
	●基本戦略3-2は「経済的手法の活用」とされているが、①「経済的手法の調査検討」はほかの項目とは違い、活用よりも調査実証が書かれているため、活用するという表現にすべき。	○ご指摘を踏まえ、表現を修正しました。
	●3-3のグリーン調達などは、企業が厳しく求められるので、国ももっと積極的に取り組んでほしい。	○ご指摘を踏まえ、表現を修正しました。
	●3-4③の遺伝資源・ABS についての記載は、一文になっていて読みにくい。遺伝資源の内容はわかりにくいものなので、わかりやすくしてほしい。	○ご指摘を踏まえ修正しました。
(基本戦略4)	●基本戦略4のタイトルでは「生活・消費活動における生物多様性との再統合」とあるが、私たちは必ずしも消費者としての観点からのみこの問題に取り組むわけではない。まず意識を高め、その上で行動を変えることがメインのタイトルになるべき。	○ご指摘を踏まえ、タイトルを修正しました。
	●基本戦略4においては、4-1でまず教育が出てくるよりは、4-2や4-3が先に出てきた方が良く当初思ったが、行動変容を前面に出すならば現状のままでも良いとも思った。再考して欲しい。	○タイトルにおいて価値の認識と行動を前面に出し、各項目の記載順は変更しておりません。

	<p>●国民をひとまとめにするのではなく、どういう方にどういうアプローチをしていくかを書くべき。注目すべき主体としては2つあり、1つは若者。日本では若い人が相対的に環境問題に関心、危機感がない。なぜ日本は低いのか含めこの問題に触れるべき。また、若者に働きかけるには SNS を含めどのような手段をとるかも盛り込むべき。2つめは女性。ジェンダーは言葉として一つも入っていない。伝統知、消費者の観点で見ると女性は重要。ジェンダーの意識を持って、という一文を入れていただきたい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、ジェンダーや若者に関する記載や、働きかけの工夫について追記しました。</p>
	<p>●生物多様性配慮物品等の選択は、選択肢があって初めて成り立つ。選択できる物品やサービスの提供についても書くべき。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、選択肢の増加や普及啓発に係る取組を追記しました。</p>
	<p>●4-4①の記載があまりにも弱い。地域コミュニティがなぜ生物多様性に関係するのかの意味がわかりにくい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、地域コミュニティの重要性等について追記しました。</p>
	<p>●4-4で地域の視点、伝統知・地域知含めて書いているのは良い改善。これについては、特別なことに取り組むのではなく、土地利用や暮らし方、自然資源の使い方、防災・減災などを含めて、地域が総合的なことにコンパクトに対応することだととらえる必要がある。一面的ではない形で、暮らしや土地利用のありかたのメッセージを出して欲しい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、暮らしや土地利用のあり方に関して追記しました。</p>
(基本戦略5)	<p>●既存制度が生物多様性に対応できていない。必要な法改正を厭わないという趣旨を入れて欲しい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、法改正に関して追記しました。</p>
	<p>●30by30 目標の達成に向け国立・国定公園等における利用料徴収の仕組みを拡充するとあるが、利用料は30by30 目標に直接結びつかないので違和感がある。また、他の箇所では利用者負担との表現が使われているので表現の整合も図るべき。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、30by30 目標の下での自然環境の質の向上の観点を記載しました。</p>

	<p>● 4 1 p②の空間計画と地域戦略について、主語が不明確。広域連携は国が関連する地域計画と連携するのか、自治体間の連携の促進なのか、具体的に求めるものを適切に記載すべき。また、関連する地域計画が挙げられているが、2050 年に向けた取組であれば、脱炭素は意識する必要があるため、地球温暖化対策の実行計画は例示として挙げてほしい。さらに、まちづくりにおける生物多様性保全が必要、という表現を入れてほしい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、記載を修正するとともに、関連する地域計画を追加しました。</p>
<p>第 1 部 第 4 章</p>	<p>● 地域主体での取組が重要、としている割に自治体どうしの連携の内容がない。国のパートナーとしての自治体との連携はあるが、自治体が主体となっていく仕組みや自治体どうしの連携が弱い。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、第 4 章に関連する内容を記載しました。</p>
	<p>● 地域の取組事例をグッドプラクティスとして共有する仕組みが重要。どう地域で応用できるか考える上で成功事例を求める声も多いのでは。</p>	
<p>第 2 部</p>	<p>● 行動目標に関連して、〇%と目標値を設定する場合はベースラインをはっきりとさせる必要がある。また、それぞれの行動目標をどうやって評価するかもあわせて検討するひつようがある。</p>	<p>○今後、指標の検討の際に留意します。</p>
	<p>● 行動計画で施策の位置づけにメリハリを付ける方針に賛成。長期的な国家計画では総花的な視点になりがちで、社会全体的なインパクトが弱い。ネイチャーポジティブに向けた動きの中で、生物多様性保全の取組をイメージできるような施策に優先順位をつけて示していくのも一つの方法。その場合、国際的な動向や市場経済の動向も踏まえる必要があり、フォローアップが重要。状況に合わせて丁寧に修正をすることを含めて、メリハリをつけて取り組んでほしい。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、第 2 部を作成しました。</p>